

東日本大震災 関連情報（第9報）

平成23年4月11日
全国老人クラブ連合会

●東日本大震災に関する、老人クラブ関連の情報をお伝えします

1. 茨城県老連

① 県内の被害状況

海沿い地域は全体に津波の被害を受けています。特に北部の北茨城市がひどく、市老連会長宅も1階部分が浸水しました。また、液状化は内陸部にも被害があり、住宅の一部損壊は67,000戸に及んでいます。

② 震災後初めての常任理事会を開催

4月7日に常任理事会を開催し、県老連において実施する救援拠金は、全国の拠金ではなく、茨城県内で配分することとしました。

●被災地以外の老連から

避難所への支援活動について、滋賀県老連 西山女性委員長から、また募金活動について大阪市老連 穂山総務課長から情報提供をいただきました。

◇ 避難所炊き出しの手伝い [滋賀県 ^{とよさとまち} 豊郷町老連]

避難してきた福島県の方々に向けて、日本赤十字社が行った3月20日から4回にわたる炊き出しでは、老人クラブ会員が大勢手伝いに出ました。

（現在はこの避難所にいる方は少なくなり、自分たちで食事を準備されています。）

◇ 街頭募金の実施 [大阪市 港区老連]

16年前の阪神・淡路大震災を思い出す東日本大震災。会員から口々に「何もしなくていいの？」と聞かれ、緊急役員会を開いて街頭募金活動を始めることになりました。

4月2日に原田 壽 会長のもと会員約100名が集い、第1回の街頭募金を行いました。お揃いのウインドブレーカーや垂れ幕、募金箱などを準備し、区内のスーパーの前や商店街等11箇所を立てて義援金を募りました。

初めてのことでドキドキしていた会員も、近所の顔見知りの方たちから励ましや「老人クラブなら安心」と声をかけられて、多数の人々や子ども、外国人も募金してくれたことにうれしくなりました。予想を超える約48万円の義援金が集まり、4月9日、16日にも同じように街頭募金活動を行う予定をしています。

この活動を通じて、地域で老人クラブの元気な姿を示すことができ、老人クラブ活動を広くアピールすることにもなりました。



港老人福祉センターの前に勢揃い



原田会長から激励のこトバ



地元商店街で



駅前で通勤客に呼びかけ

●「阪神・淡路大震災—老人クラブの活動記録集」から

「被災地と交流する友愛活動」について、続きの2頁を紹介します。

(老人クラブ活動記録参照)

東日本大震災 関連情報（第8報）

平成23年4月1日
全国老人クラブ連合会

●東日本大震災に関する、老人クラブ関連の情報をお伝えします

1. 福島県老連

① 県内避難者への友愛・交流活動の推進を決定

福島県（59市町村）は原発事故のために、浜通り地方13市町村のうち10市町村に避難指示が出され、全国に避難しているという他の被災県と違う問題を抱えています。

県老連では30日（水）に役員会を開催しました。理事会は定数14名中本人出席5名、評議員会は29名中本人7名でした（いずれも委任状により成立）。会議では、桑折町老連会長から、単位クラブ会長が避難所を訪問した活動などについて発表があり（下記②）、県老連として今後このような県内避難者への友愛・交流活動を推進していくことを確認しました。現在、県内の公共施設は避難者対応などでクラブ行事に使えないところも多くなっていますが、市町村に徹底していくつもりです。

また、救援拠金はすでに被災していない市町村老連へ呼びかけており、県老連役員会で使途を決めることにしています。

② 避難者の心に沿った活動を [桑折町老連 猪俣好巳会長]

浜通り地方から桑折町に避難してきている方々の避難所に、単位クラブ会長で訪ねました。足りないものはないかを聞いて、手に入りにくい牛乳を買いに行ったり、ガソリンの予約券を並んで確保したりしました。民謡が盛んな相馬地方からきている方たちには、機材を準備して民謡が聴けるようにしたり、太極拳のできる会員が行って一緒に身体を動かすことも。また町に提案して避難者向けに“まちめぐりバス”も出してもらおう予定です。

③ 役員会終了後、県老連 小室会長は、事務局の北村副主査とともに、郡山市へ避難している相馬市老連 山野辺会長を訪ねました。そこで伺った被災体験です。

「地震の後、テレビもつけなかったので津波がくるとは知らずに、近所の人がいないなあと思いながら外の片づけをしていました。異様な音がして水がきたため津波と気づき、2階にあがりました。後ろからきた妻は胸まで水につかりましたが、無事でした。今は娘の住む郡山市にきています。」

なお、福島県地元新聞がまとめた「県外避難所リスト」（100人以上）は別紙のとおりです。

2. 青森県老連

老人クラブ会員の被災状況について、県老連から報告がありましたので抜粋してお伝えします。なお県内被害総額は、420億円を超えると報道されています。

- ・八戸市 家屋浸水 約60名
- ・三沢市 家屋全壊1、同半壊1、同浸水1 他、漁船全損1、船小屋全壊4
- ・おいらせ町 床上浸水1、床下浸水2

●被災地以外の老連から

1. 埼玉県老連

落合事務局長、椎名主任は、福島県から避難している方たちの避難所“さいたまスーパーアリーナ”で3月末までボランティアをしました。椎名主任の感想を別紙に掲載します。

●“元気袋” Q&A (その2)

前回に引き続きQ&Aを掲載します。細部につきましては、先般通知した「被災県別サポート体制」による幹事会議(4月14日開催)においてまとめていく予定です。

問い “元気袋”が準備できたら、全老連に送付すればいいのですか？

答え 届け先は「被災県別サポート体制」のなかで決めていくことを原則とします。手順については、幹事会議(4月14日)の後にご連絡します。

「“元気袋”を届けよう」呼びかけ文(第4報)にも記載したように、“元気袋”は現在の緊急時ではなく、3か月～6か月後から届けることができると思われます。長い目で支援していきたいと考えています。

前回、岩手県の避難所に“元気袋”を届けた報告をしましたが、これは県老連が入居しているセンターが避難所であるため可能になった事例です。

●「阪神・淡路大震災—老人クラブの活動記録集」から

「被災地と交流する友愛活動」について、続きの2頁を紹介します。

(老人クラブ活動記録参照)

東日本大震災 関連情報（第7報）

平成23年3月28日
全国老人クラブ連合会

※地震の名称について、本報から上記「東日本大震災」を使うこととします。
(なお、本日付全老連発文書にて名称についてふれていますので、ご参照ください。)

●東日本大震災に関する、老人クラブ関連の情報をお伝えします

1. 岩手県老連

① 避難所に“元気袋”を渡しました

本情報第5報（3月23日付）でお伝えした、岩手県老連のある「ふれあいランド」に設置された避難所に届けた“元気袋”は、県老連職員の手によって袋詰めされ、手渡しされました。職員の一人、七尾さんから報告をいただきましたのでお伝えします。なお、第5報の報告にもれていましたが、袋（エコバッグ）は兵庫県老連から寄贈されたものです。

- ・ふれあいランドの避難所では、館内のレストランに移動して夕食をとります。3月24日、夕食が終わってみなさんが帰る際、一人ひとりに「まごころを添えて」と言葉をかけながら“元気袋”を手渡しました。
- ・避難所にいらっしゃる方は着のみ着のまま避難してきたので、小物を入れる袋もなく、“元気袋”は大いに喜ばれました。また、袋に記された「兵庫」の文字をみなさんはじっと見つめていました。阪神・淡路大震災の被災地からの励ましが伝わった気がします。
- ・受け取った方々から「ありがとうございます」とお礼を言われ、こちらのほうが逆に元気をもらいました。



袋詰めは被災した大槌町老連 柳田会長も手伝ってくれました。



午後6時、夕食後に「元気袋」を配布。
(袋を持っている右端が七尾睦子さん)

② 県老連「震災対策本部」立ち上げを決定。

県老連では3月26日（土）に震災後始めてとなる正副会長会議を開催し、震災復興支援を中心に協議しました。この会議には、全老連から齊藤事務局長も出席しました。会議では、県老連に震災対策本部を立ち上げることを決定し、3人の副会長が分担して被災13市町村の状況把握に努め、老人クラブの再興を目指す方向が確認されました。また、県老連において実施する救援拠金は、全国の拠金ではなく、岩手県老連において県内で配分、運用することとしています。

菅野会長は「内外に対して“老人クラブここにあり”の姿勢を示していきたい」と話されています。

2. 新潟県老連

3月12日に起きた長野県北部地震における新潟県内および高齢者の被災状況について、県老連から報告がありましたので抜粋して報告します。

【人的被害】 重軽傷者44名、内60歳以上高齢者 28名（64%）

・東日本大震災死者の65%が60歳以上という報道とほぼ一致しています。

●被災地以外の老連から

避難所への支援活動について、大野新潟県老連会長から伺った内容を取材しました。

○ 福島県南相馬市から避難してきた子どもたちへ、手作り品を渡す

〔新潟県三条市 熟年いこいの会〕

クラブの活動拠点である青少年育成センター「ソレイユ三条」は、福島県南相馬市から避難してきた約160名の避難所になっています。私たちは平成16年に水害に遭い、会員は被災者の気持ちやボランティアのありがたさがわかっています。早速、救援拠金を呼びかけましたが、他にも私たちにできることはないかと考えていました。

例年、地元小学校を卒業する6年生との交流を続けていきましたが、震災のため縮小。それでは6年生とクラブ、自治会みんなで、避難所の子どもたちへ何かプレゼントをしようと計画しました。持参品は、6年生はシュークリーム、自治会はお菓子セット、そして老人クラブは手芸部手作りの今年の干支・うさぎのストラップ（飾りもの）を、みんながんばってというメッセージをつけて準備しました。

3月27日（日）午後の訪問は、6年生20人、自治会役員、クラブからは小学生登下校時の安全を守る「熟年お守り隊」のメンバー17人です。先方は幼児から高校生までと身障者6人を含む35人で、喜ばれました。

今後も、必要であれば子どもの学用品や、運動不足にならないための軽スポーツ実施などを支援していきたいと考えています。

（会長 上石貞夫）

●救援拠金の取り組みについて

14日付全老連発文書および第2報にて通知した、救援拠金につきましては、中間取りまとめを「5月末日」としておりますが、これに関わらず、ある程度まとまった金額になりましたら、ご送金いただければ幸いです。

被災老連に対して、早めの配分をしていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

●“元気袋”のQ&A

第4報にて呼びかけた“元気袋”につきまして、全老連に問い合わせがあったことについて、まとめて紹介します。

なお、細部につきましては、後日まとめていきたいと思っております。

問い 袋にセットして送付した方がよいですか？

答え セットして送付すると空きができて効率が悪いいため、集めた品の一覧をつけて、物品ごとにまとめて送付することをお勧めしています。

地元で届けてくれる方にセットを依頼することにより、“届ける”という意識を共有できることもメリットだと思います。

問い メッセージや手紙は必要ですか？

答え 集められたところの名称と、一言メッセージを入れてはどうでしょうか。

個人の手紙を義務づけるのは、やや荷が重いと思われれます。

なお、メッセージ例は、第5報で全老連作成分を紹介していますので、ご参照ください。

●「阪神・淡路大震災—老人クラブの活動記録集」から

「被災地と交流する友愛活動」について、続きの2頁を紹介します。

(老人クラブ活動記録参照)

東日本巨大地震 関連情報（第6報）

平成23年3月25日
全国老人クラブ連合会

●東日本巨大地震に関する、老人クラブ関連の情報をお伝えします

1. 福島県老連

県老連の理事・評議員は全員無事が確認できています。

ただし、原発で避難している地域とは、連絡をとることができません。

2. 仙台市老連

本日の全老連理事会・評議員会において紹介した、橋本市老連会長からのメッセージおよび被災状況を掲載します。

【メッセージ】

地元の老人クラブ会員をはじめ、多くの方々に支えられて、ようやく少し落ち着くことができました。地域の老人クラブのことを考えると、私が元気なところをみせないといけないと思っています。とにかく気丈に、がんばります。

【橋本会長の被災状況】

橋本会長は地震で自宅が半壊となり、住めなくなりました。夫は地震前から介護が必要なため、被災後は夫のベッドをもって2～3か所の避難所を渡り歩き、介護施設にも無理をいって3日間あずかってもらいました。会長が歩き回ってアパートを見つけ、二人でやっと落ち着いたところです。その間、老人クラブ会員やボランティアの仲間がなにかと世話をしてくれたといえます。

「気丈に動き回りましたが、年をとってからこういうことはつらい。気をゆるめるとガクッときます。でも、会長である私が元気なところをみせないと。」

●被災地以外の老連から

○ 秋田県老連

第3報で報告した、地震の日に岩手県大槌町に旅行に出かけていて無事帰還した、秋田県五城目町と井川町の老人クラブでは、その後、大槌町に恩返しをするために米などの支援物資を送り、また義援金募金活動で街頭に立ちました（3月20日、27日予定）。

●「阪神・淡路大震災—老人クラブの活動記録集」から

前回から「被災地と交流する友愛活動」について添付しています。当面、2頁ずつご紹介していきます。（老人クラブ活動記録参照）

東日本巨大地震 関連情報（第5報）

平成23年3月23日
全国老人クラブ連合会

●東日本巨大地震に関する、老人クラブ関連の情報をお伝えします

1. 宮城県老連

先週は津波被害の大きかった海沿いの8市町村と電話も通じず、連絡がとれませんでした。次々と市町村老連会長、事務局の無事が確認でき、現在連絡がとれていないのは3町（南三陸町、女川町、亘理町）になりました。

○ 松島で被災した坂本事務局長の体験談（22日電話）

「松島で津波警報をうけて、車でショッピングセンターの駐車場へ上がっていた時に津波がきて、私の2台後ろの車は津波に流されました。海に近い自宅は冠水して、避難所となっている近隣の旅館にいます。鉄道が遮断されて車のガソリンもないため、今日は近所の人々の車に相乗りさせてもらって県老連に出勤しました。」

2. 仙台市老連

連絡がとれなかった宮城野区荒浜在住の理事は、息子さんからの連絡で無事が確認されました。

3. 岩手県老連

22日、連絡のとれていなかった釜石市老連 横山事務局長から電話がありました。「事務所はすべて流され、後日行って見たらドアもなくカレンダーが唯一残っていました。地震があった時は事務所にて、津波警報がでたので自宅に戻ったところを津波に襲われました。裏口からの水で流され、少し開いていた玄関から表に流され、目を開けたら、上にごみ等が浮いていました。電線が下がっていたので、それにつかまり、電信柱によじ登り、波が引くのを待ったのです。その間も第2波、第3波がきた中で、泳いで自宅にたどりつき、2階に避難していた妻のところに戻ることができました。ところが、今度は2階から降りられずに困っていたところ、男性3名がはしごというか、手すりみたいなものを持ってきて助けてくれました。感謝。今は姪のところ避難しています。」

4. 青森県老連

被災した4市町老連（八戸市、おいらせ町、階上町、三沢市）の会長、事務局は無事です。現在、各市町老連において、会員の安否確認をすすめているところです。

●被災地以外の老連から

○ 大阪市老連（事務局 穂山さんの電話）

「今回の震災に際して、阪神・淡路大震災の時の老人クラブの活躍を覚えている役員さんたちから電話をいただき、“老人クラブで今何ができるか”話し合うために、急遽3月中に会長会議を開催することになりました。資料を読み返して、当時の老人クラブの活躍に驚いています。」

●岩手の避難所へ、全老連から“元気袋”を届けました

岩手県老連事務所のある「ふれあいランド」は避難所となっていて、102名が避難生活をしています（3月23日現在）。その方々に向けて、全老連では、関連会社に呼びかけたり、職員が持ち寄りして集めた、次の品を昨日送りました。

- ①タオル
- ②エコバッグ
- ③ポケットティッシュ
- ④ホッカイロ
- ④その他（ひげそり、ヘアブラシ、歯磨きセット、筆記用具、メモ帳）
- ⑤岩手県老連との連名によるメッセージ

被災された皆様へ

全国の老人クラブ会員は応援します

大規模地震により被災された方々に、
謹んでお見舞い申し上げます。

わたしたちは、被災地に心を寄せ、
厳しい状況に立ち向かう皆様に応援します。

2011年3月25日

全国老人クラブ連合会

岩手県老人クラブ連合会

〒020-0831 岩手県盛岡市三本柳 8-1-3

ふれあいランド岩手内

電話：019-637-6544

●「阪神・淡路大震災—老人クラブの活動記録集」から

この号から、記録集から抜粋して当時の活動を紹介します。（老人クラブ活動記録参照）